

家庭科

学年	学習状況と課題分析	具体的な改善策
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席が徹底している。 ・授業前に授業の準備ができている。 ・授業中は発言する生徒が多く、集中して取り組んでいる。 ・持ち物を忘れる生徒は少ないが、一部の生徒に忘れ物が目立つ。 ・生活体験が少なく、手先のことなど個人差が大きく作業進度に大きく差がつきやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時授業の最初に「授業のめあて」を提示し本時の授業内容を確認している。 ・製作に必要な用具は家庭科室に置けるよう棚を準備する。 ・授業の最後に必ず、次回の持ち物・授業場所の確認をしている。係からも必ず前日の帰りの会で伝えることを義務付ける。それでも忘れる生徒には用具を貸し出し、授業が遅れないように配慮する。 ・作業の進捗には個人差が大きく、二極化しているので、遅れ気味の生徒には机間指導の際、丁寧に説明や手ほどきを行う。 ・ICT 機器を活用し、作業の提示方法の工夫を検討する。(見本、行程を示す)
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席がほぼできている。 ・授業前に授業の準備がほぼできている。 ・授業中は発言する生徒が固定している。授業中の質問に対する発言も少ない。 ・プリントなど自分なりに工夫してとり、課題に対する取り組み方がよい。 ・家庭科に対して、苦手意識をもっている生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時授業の最初に「授業のめあて」を提示し本時の授業内容を確認している。 ・授業の最後に必ず、次回の持ち物・授業場所の確認をしている。係からも必ず前日の帰りの会で伝えることを義務付ける。それでも忘れる生徒にはプリントなど渡し、授業が遅れないように配慮する。 ・授業内で生徒達が興味をもつような質問をしたり、やる気が出そうな簡単なプリントなどを準備する。 ・プリント、実物見本、DVD など一つ一つの工程を分かりやすくするために準備する。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席が徹底している。 ・授業に関して興味・関心を持って取り組んでいる。 ・課題に対する取り組み方がよい。(提出状況等) ・集中して取り組んでいるが、授業中の質問に対して反応が少ない。 ・発言する生徒は固定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前日までに次の授業の日時と持ち物を必ず確認している。 ・毎時授業の最初に「授業のめあて」を提示し本時の授業内容を確認している。「今日の授業内容・配布物」等を書き、どのようなことをするのか明確にする。(何が必要なのか、生徒が自分自身で気づくようにする。) ・授業内で生徒達が興味をもつような質問をしたり、やる気が出そうなプリントなどを準備する。 ・作業中は机間指導で適切なアドバイスを行い、自分で考えられるよう導く。 ・ICT 機器を活用し、わかりやすい作業の提示方法の工夫を検討する。